

「リニアバレー構想」具現化に向けた地方創生特区活用プラン

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議

「リニアバレー構想」がめざす姿

平成 39 年、リニア中央新幹線の長野県駅が伊那「谷（バレー）」に設置される。この地域が、リニアを最大限に活用して地域発展の原動力とすることで、「リニア」で身近になる大都市や世界の活力を引き寄せて、豊かな自然環境の中で地域も人々も輝く「リニアバレー」を実現する。

1 国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点 ～世界とつながる～

➤ グローバル産業や研究開発機関、航空産業クラスター、メディカルバイオクラスターといった新たな時代の産業の集積と次世代産業の創出を進める。

2 巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点 ～日本を支える～

➤ 首都圏と中京圏の中間に位置し、リニアを活かした時間短縮効果を最大限発揮できる地の利を活かすことで、首都機能や企業の中核機能のバックアップを果たす。

3 高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」 ～ここで豊かに暮らす～

➤ 都市圏への通勤や二地域居住、週末農業など新たなライフスタイルを提案するとともに、豊かに暮らすための地域づくりや魅力ある自然環境の保全と景観の形成を進める。

4 世界から人を呼び込む感動フィールド ～ここでふれあう～

➤ インバウンドも含めた広域観光の推進により交流人口を拡大させるため、美しい信州の原風景や文化を活かした広域観光ルートづくりや体験型観光の推進を図る。

地方創生特区制度を活用した取組みの展開

リニア整備による効果

リニア開業により、長野県駅（飯田市）まで、東京から約 45 分圏、名古屋から約 27 分圏に含まれることとなり、八王子市、横浜市、多治見市、桑名市、岡崎市などと同じ都市内交通圏（通勤・通学圏）に含まれることとなります。

また、国際空港への所要時間も、中部国際空港まで約 70 分、羽田空港まで約 80 分、成田国際空港まで約 120 分と大幅な時間短縮が見込まれ、概ね2時間以内で3つの国際空港にアクセスが可能となります。



“めざす姿”を実現するための特区を活用した主な取組み（案）

➤ 新たなライフスタイルの提供

リニア駅を活用して、定住・通勤環境を整備することなどにより、高度な都市環境の中で働き、大自然に囲まれた環境の中で暮らすという新しいライフスタイルを提供する。

【課題：移住定住等の促進】

・リニア駅を活用して定住・通勤する人向けに住宅地を確保

農振法等の規制緩和

・「大都市圏への通勤」「二地域居住」などの居住ニーズに対応するため、分譲地の整備など居住環境の整備を進める。
・クラインガルテン等、定住につながる取組の充実を図る。

【課題：自動走行の活用】

・自宅からリニア駅までストレスなく移動できる自動走行の整備

道路交通法等の規制緩和により自動走行（自動車）の活用実証実験を実施

・リニア中央新幹線による都市圏通勤を補完する交通利便の向上を図る。
・バスを自動走行化し、デマンドタクシーと連携した公共交通網の整備を進める。
・点在する観光施設間を自動走行車両で結ぶ。

【課題：地域の活性化】

・まちなかに人が集うことができるよう、まちなか活性化イベントにあわせてオープンカフェを設置

道路占用許可等の手続きの緩和

・道路空間を活用したオープンカフェの設置等、まちなか活性化策への有効活用を進める。

➤ 有害鳥獣の捕獲の促進

アルプスの里山の山並みなど伊那谷の美しく雄大な自然環境を守り、地域の宝として育て活かしていくため、新たな手法で有害鳥獣の捕獲を促進していく。

【課題：有害鳥獣の捕獲の促進】

・猟友会員の後継者不足が見込まれる中で、狩猟者数を拡大

ライフル銃の所持要件緩和
狩猟免許の有効期限の延長

・シカ駆除に有効なライフル銃所持者を早急に確保する。
・農林業被害の軽減、自然環境の保護を図るとともに山腹崩壊を防止する。
・一般狩猟者を増加させ、交流人口の増加にも繋げる。

ドローンによる生態調査等

・有害鳥獣対策を講ずる上での研究促進を図る。
・嫌忌な音波による有害鳥獣の囲い込みにより効果的な捕獲を進める。

➤ 広域観光の推進

日本アルプスの玄関口としての役割が期待されるリニア駅を拠点として、魅力ある多様な体験ツーリズム等を推進するために、広域観光を推進していく。

【課題：広域観光の推進】

地域の観光資源を活用した、多様化する観光客ニーズに対応する「着地型旅行商品」を開発

旅行業法の、営業保証金や業務範囲の規制を緩和

・観光協会や行政主体の組織が地域観光資源を活用した旅行商品を企画し誘客を進める。
・雇用確保や経済の活性化を図る。
・農業体験や山菜・きのこ狩り体験、田舎暮らし体験、登山等、魅力ある多様な体験ツーリズムを確立する。
・豊かな自然環境、温泉、地元農産物を活かし、ヘルスツーリズムを推進する。

【課題：古民家の活用】

古民家を活用した文化施設を整備

特区メニューにより古民家を活用

・資料館や収蔵施設として活用することにより、文化財愛護意識の高揚を図る。
・既存の施設等と連携することにより効率の良い資料館の運営を行う。

【課題：森林資源の活用】

・国有林野の民間等への貸付・使用を拡大し観光振興

国有林野の貸付け面積の拡大

・現在借りている観光資材活用の面積を拡大することにより、さらなる観光振興を図る。